

環境調査結果のお知らせ

令和8年4月20日10時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、3月9日から3月18日まで赤潮（緑色の着色）を形成していたハプト藻と同一と考えられる植物プランクトンが最高で160 cells/mL確認されました。また、魚類に対して有害なヘテロシグマ・アカシオが最高で720 cells/mL、主に麻痺性貝毒の原因種とされるアレキサンドリウム属が最高で4 cells/mL確認されました。これらのプランクトンは、今後増殖する可能性がありますので、十分注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	ヘテロシグマ・ アカシオ	珪藻	アレキサンドリウム 属	ハプト藻
A 鳴無 (4.1m) 【10:08】	0	20.5	28.3	9.7	720	-	0	0
	2	21.2	31.5	9.9	40	-	1	30
	5	20.0	32.1	9.3	0	-	1	10
	底層 8.5	19.5	32.3	8.2	0	-	2	0
B 中学校前 (3.9m) 【10:15】	0	20.9	29.2	9.4	240	3,500	0	0
	2	21.0	31.1	9.6	0	1,400	3	10
	5	19.6	32.0	8.8	0	700	3	0
	10	19.3	32.4	6.6	0	950	1	0
底層 11.5	19.0	32.5	5.3	0	350	0	0	
C 目ノクソ (4.1m) 【10:23】	0	20.5	28.8	9.6	0	-	0	30
	2	20.4	31.5	9.6	0	-	0	80
	5	19.7	31.9	8.4	0	-	0	120
	10	19.2	32.3	6.6	0	-	0	0
底層 15.5	18.6	32.8	4.5	0	-	0	0	
D 光松 (4m) 【10:34】	0	20.7	29.6	9.2	90	1,650	4	20
	2	20.0	31.5	8.8	80	1,100	1	160
	5	19.5	32.0	7.4	0	250	4	120
	10	19.2	32.3	6.6	0	160	0	0
底層 16.5	18.3	32.9	3.7	0	40	0	0	
E 大鹿 (4m) 【10:45】	0	20.6	30.4	9.1	50	-	1	10
	2	20.1	31.4	8.8	0	-	3	60
	5	19.5	32.0	7.6	0	-	1	40
	10	19.4	32.5	6.9	0	-	1	0
底層 16	18.2	33.0	3.5	0	-	0	0	
F 水試小割前 (3.9m) 【10:54】	0	20.2	30.1	8.6	200	-	0	140
	2	20.0	31.1	8.5	30	-	1	100
	5	19.6	32.5	7.4	0	-	0	40
	底層 8.5	19.6	32.8	7.3	0	-	0	0

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3
				浦ノ内湾
ヘテロシグマ・アカシオ	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月
アレキサンドリウム属	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 鳴無

B: 中学校前

C: 目ノクソ

D: 光松

E: 大鹿

F: 水試小割前

ヘテロシグマ・アカシオ

最大細胞密度



珪藻

最大細胞密度



アレキサンドリウム属

最大細胞密度



ハプト藻

最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ
 円のサイズが大きいほど、プランクトンの数が多いので注意してください。



注意・警戒を示す円の色
 黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。
 基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

